

科目名	高次脳機能障害学Ⅲ			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位
				必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2年 前期
【授業の目的・ねらい】 高次脳機能障害について総合的に理解し、臨床に関連づけた知識を得る。							
【実務者経験】 須崎くろしお病院、放課後等デイサービス、児童発達支援事業所にて、急性期、回復期、及び発達障害領域のリハビリテーションに従事する。							
【授業全体の内容の概要】 言語聴覚士が高次脳機能障害に行う、評価からリハビリまでの知識を関連付けて考え、技術を修得する。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 高次脳機能障害について総合的に理解し、臨床でよく使用される検査の評価が行えるようになる。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	高次脳機能障害及びせん妄について理解できる						
2	認知症について 長谷川式簡易知能検査実施方法、評価ができる						
3	MMSE検査実施方法、評価 認知症の行動、環境からの評価視点について理解できる						
4	STAD 各項目で評価するポイントが理解できる						言語障害スクリーニングテスト (STAD)
5	STADでの症例を用いて、レポート作成の練習ができる						言語障害スクリーニングテスト (STAD)
6	失語症の評価（聴覚的理解、呼称、復唱のメカニズム）について理解できる						なるほど失語症の評価と治療
7	失語症の評価（書き取り、書称、読解、音読のメカニズム）について理解できる						なるほど失語症の評価と治療
8	SLTA プロフィール解釈ができる						なるほど失語症の評価と治療
9	症例SLTAを通しての評価 ができる						なるほど失語症の評価と治療
10	失語症メカニズムについて理解できる						なるほど失語症の評価と治療
11	掘り下げ検査 失語症語彙検査 重度失語症検査 重度失語症検査 トークンテストについて理解できる						
12	失語症訓練について理解できる						
13	訓練の基礎（シュールの刺激法、機能再編法、語彙訓練、遮断除去法等）が理解できる						
14	右半球損傷のコミュニケーション障害 頭部外傷のコミュニケーション障害について理解できる						
15	認知症のコミュニケーション障害、言語障害の特徴及び高次脳機能障害における言語聴覚士の役割について理解できる						
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 言語障害スクリーニングテスト (STAD) なるほど！失語症の評価と治療 検査結果の解釈から訓練法の立案まで							
【準備学習・時間外学習】 授業で行う内容の予習・復習を行ってください。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。							